

むくげ通信 28

1975.1.26

目次

- コバウおじさん(東亜日報)と韓国現代の歩み 1
- <権威> 朝鮮の名産あれこれ 11
- 時評 「韓国民主回復斗争と東亜日報の斗い」 12
- 資料 「国民のみながまへの手紙」 同甲者家族協議会 ---- 13
- 書評 「アリラン峠の女」 15
- <翻訳> 「韓国日本の朝鮮経済侵略」(5) 最終回 ---- 17
- 研究会レポート 「日帝下の国語運動研究」 22

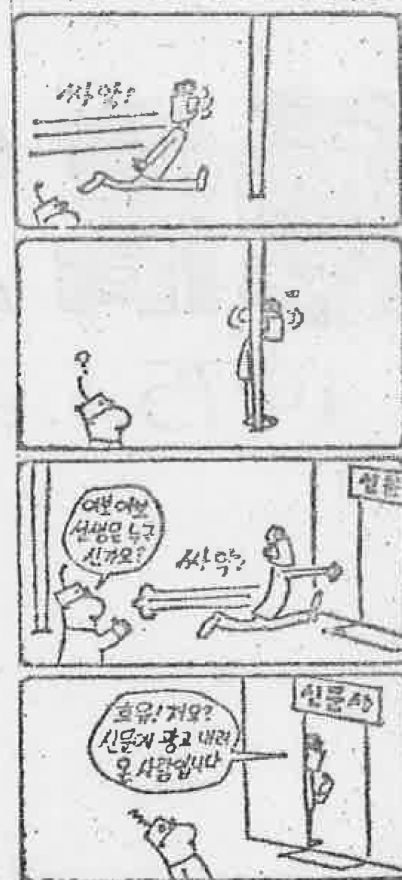
むくげの会 神戸市垂水区多聞台3丁目10-25-201 飛田方
TEL: 078-781-8677 (部50円(年間450円・送料)

「東亜日報」連載マンガ

コバウおじさんと

韓国現代の歩み

(6302) **コバウおじさん**



サッ
サッ
あしもし
先生はどなたですか?
新聞社
フー
私ですか?
新聞に広告を出した素
な人間です。

これは十二月二十七日付東亜日報の漫画「コバウおじさん」で、東亜日報で起った、広告大量解約事件、を諷刺したものである。韓国では昨年十二月二十一日頃からスポンサーが、「言葉には出せない事情」で東亜日報に對する広告を集団解約し、一月十日には広告を依頼にき

に女性が「某機關」に連行される事件まで起ったと伝えられてゐる。広告解約事件は、民主および言論の自由回復を主張し闘つてきた同紙に對する、権力の陰湿な圧力の結果であることは明らかであるが、この漫画はそのへんの事情をよく暗示してゐると思う。

コバウおじさんの名前は、これまでに日本の新聞雑誌などで何度か紹介されてゐるので、知っている人も多いと思う。コは高、バウは岩を意味し、韓国では極めて庶民的でありふれた名前。おじさんに當る男は、令監と書き、老人に對する敬称として一般的に使われている。

コバウのために東亜日報をみるという人があるくらい、コバウは民衆に愛され親しまれてゐる。東亜日報の読者でなくてもコバウのファンは多い。その層は、中学生から老人まで、また力仕事の労働者から大專教授まで、耳今の制限、知識、教養の格差を越えて多種

多様である。コバウ文具店、コバウ靴店など、コバウの名前をつけた各種商店が韓国中にたるところにあり、その数は数百軒にも達するといわれる。映画にもなった。昨年の十月十七日、コバウが休載された。ちょうどその前日にタイでタノム政権が倒れており、同日付のコバウはその内容を記載しようとして、当局の圧力が加かったものと推定されているが、その日東亜日報では一晩中へ東亜日報は夕刊紙）向い合せの電話が絶えなかったという。

コバウおじさんの人気は、後の持つ庶民性とともに社会諷刺にその根拠があるようだ。過酷なまでに言論の沈黙を強いられ、憤懣の中で、権力の不義、不正に對していかんなく発揮される諷刺精神は、日本のマスコミ記者に「残念ながら日本にはこんなすこい漫画はない」ときかしめたものだ。朝鮮民族は諷刺、諷刺性に豊んだ民族だといわれる。李朝後期の有名な諷刺詩人金笠の詩は、子供から大人まで広く民衆に暗誦され、その精神は、現代の金芝弼の詩などに受け継がれているといわれる。朝鮮人にとってこのような諷刺、諷刺性と庶民性とは、一つに溶け合ったものであり、それがコバウの人気を支える背景になっているのだと思う。作者の金星煥氏は一九三二年、現在が朝鮮民主主義人民共和國に入っている京畿道順城で生れた。父親は

有名な抗日運動家であったという。コバウが誕生したのは朝鮮戦争の最中、氏が叔十日の間押入れの中に隠れ住んだ時に秀え出された。「私なりに男女老少の別なく、みんなが愛情を持って親しく接することのできる主人公だ」との判断があつて世に送り出したものだという。コバウが初めて登場したのは大邱で出された週刊紙「漫画新報」からで、その後二、三の雑誌に連載されてきたが、一九五五年二月からは東亜日報に連載されるようになった。解放後初めての本格的な新聞連載漫画であった。

当初の作品は、純粋な家庭漫画としてバントマイム形式が採られていた。しかし「社会が次第に複雑化していくのに合せて、コバウおじさんは諷刺漫画的形式に変えられたという。

一九五一年にコバウが世に出てから二十余年。現在までの作品は、七千点近くに達する。その間の歩みは韓国の現代史そのものであった。李朝時代、四・一九、軍事クーデター、朴政権時代と、激動する時代の流れの中で、コバウおじさんは民衆とともに歩んできた。その諷刺性ゆえに、幾度か筆禍も被った。一昨年、に発刊された全集の中で金氏は「これが単純な漫画全集とみるより、解放後のが民族が歩んできた苦しい社会史の一面を代弁したもの」とみてほしいと述べて

李承晩の時代

李承晩は、自らの独裁政権を維持するために、しばしば露骨なテロ手段を利用した。朝鮮戦争後、民衆が自衛隊を組織して孤立した李承晩は、「白骨団」として民衆自決団し、「ジジババ大隊」として直系の政治テロ団を組織し、大統領直接選挙制への強引な憲法改正を行なった。野党議員を白鳳路上でぶんどるようなことがまかり通ったのである。一九五二。当時は、アカ、的とみられるものすべてがテロの対象となり、反李承晩を唱えた多くの人がその犠牲となった。一九五五年九月に起った「大邱毎日新聞」に対するテロは、

李承晩時代の数多いテロ事件の一つで、この頃のコバウにはこうしたテロを諷刺したものがある。李承晩は国内ではむちゃくちゃな政治を行なった。ただ一つ対日の強硬姿勢だけは終始くさなかった。日本で「李承晩ライン」という名で知られる「平和ライン」も、その典型的なものであった。それは「公海の自由」を口実に、圧倒的装備の日本船が韓国の漁民を圧迫することに対する抵抗であり、韓国漁民の志向と合致していた。日韓条約締結による「平和ライン」撤廃後の韓国漁民の状況は、そのことがいかに正しかったかを証明している。

一九五八年の「新保法」は、人権を無視する点で日本

大邱毎日事件国会調査団上京



白中れテロ事件で
はなく、午後四時
半の事件であった。



あ、四時半過ぎ



11のちに危機を感じ



1955. 9 大邱毎日新聞社テロ事件

本の匿名高い治安維持法にいい、そう輪をかけてたものであった。コバウおじさんが眠れなかったように、多くの人が眠れなかったに違いない。十二月二十四日数百名の完全武装した警察機動隊が国会議場に乱入、野党議員を殴打して逃げ出し、新聞

カバッ!



!! 何がいきなり?



!! 何所へいくの?

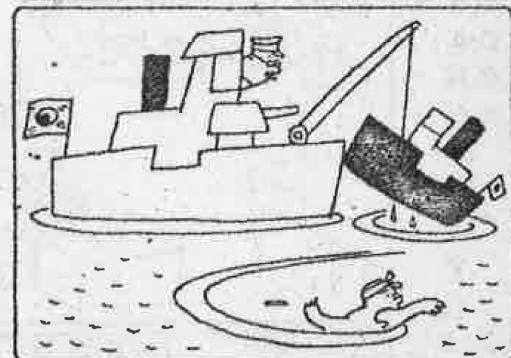


新国家保身法が通過
またや戻してさうの
ました



1958. 11 保身法上程

無事な色を獲って帰
れそうですように。



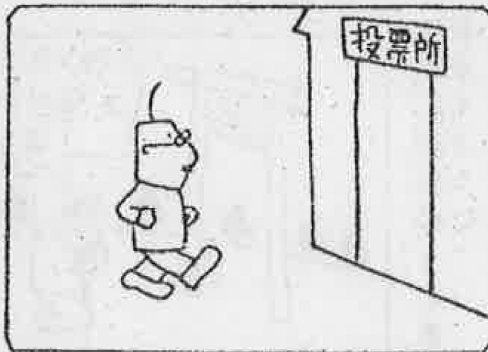
通身をやめてさこり
に

新国家保身法を成立させ
た。
旧保身法は、一九
四八年左翼勢力およ
び反対勢力を弾圧す
るために制定された
もののだが、李承晩政
権を絶対化するため
満一年後へ一九六〇
年に迫った大統領選
挙への布石として、
新保身法が画策され
たのである。
この新保身法成立
時の暴挙と反対闘争
の余波は、絶えるこ
となく広くなっていき
一九六〇年三・一五
の不正選挙と四・一
九蜂起へと続いてい
ったのである。

一九六〇年 四月蜂起

三月の大統領選挙は、ありとあらゆる手段をつくした不正選挙であった。事前投票、投票箱のすり替えはもとより、特定有権者には選挙票を渡さないことまで行なわれた。こうした不正選挙に端を発して民衆は立ち上った。

四月、馬山で起った暴動は、またたく間に南朝鮮全土に波及、各地で果敢なデモが展開された。それは長年にわたる李承晩の圧制に対する怒りが爆発したものであり、自然にはとばしり出た民衆の巨大なエネルギー



君、良心を持ってく
れたまえ。



誰に向かっていって
いるの呀!



投票箱にいって、い
るのだ、何が、

1960.3 正副大統領選挙

であつた。とりわけソウルでは、四月十九日各大学、高校生が一勢に蜂起し、多数の市民、労働者がこれに呼応した。その層は小学生から老人に至る広範なもので、デモ鎮圧に出た警官の実弾射撃にも屈せず雄敢に立ち向い、しだいに李承晩政権を追いつめていった。死者百八十六名、数千名にのぼる負傷者という尊い犠牲によって、李承晩政権は崩壊した。自らの手で、力で初めて暴圧的行政権を倒し得たことは、民衆に大きな自信を与えた。そして、そのエネルギーは、さらなる自由、祖国の統一に向けて大きくうねりはじめた。来れ南へ、行こう北へ、会おう板門店で——一九六

一年五月、南北学生会談がまさに実現しようとした時、朴正熙の軍事クーデターが起り、四月蜂起の成果はかすめ取られてしまった。

しかし、その精神は民衆の中に脈々として生き続け、現在の民主、言論回復の闘いとして現われて

朴政権と日韓条約

四月蜂起後に并ばえた自由の芽は、充分に開花することなく、軍事クーデターによって摘み取られ、民衆は再び厳しい冬の時代を向えた。コバウおじさんもちクーデターの後十日間程休載し、再開してからも政治諷刺はしばらくできずじっと息をひそめていたようだ。非常戒厳令の事態のなかで、黙ってクーデターのなりゆきを見守っていた民衆の姿がそこに反映されている。軍事政権は六一年八月、一九六三年には「民政移管」を行なうと約束した。しかし、六三年にはいると「

民政移管」に条件をつけたリ、あるいは、軍政を四年間延長すると声明したりした(六三年三月)。また朴正熙自身は、大統領選に出馬しないと約束していたがそれも反故にした。

一九六五年、アメリカからの経済援助の減少や五年計画の不振などの経済情勢から、朴政権は早急に日韓会談を妥結させ、経済面については政治面の活路を見いだそうとした。日韓条約は、過去の植民地支配を合法化し、韓国漁民にとって死活問題である「平和ライン」の撤廃など、種々の問題を含んでいただけに、広範な反対闘争が展開された。南北の分断を固定化し、



四年後といえは、私が
停年退職になる時かな。



四年後といえは愛娘が
お嫁に行くころだ。
私の腰は弓のようにな
るよ。



四年後といえは、お前は
ひ孫をみるのだ。

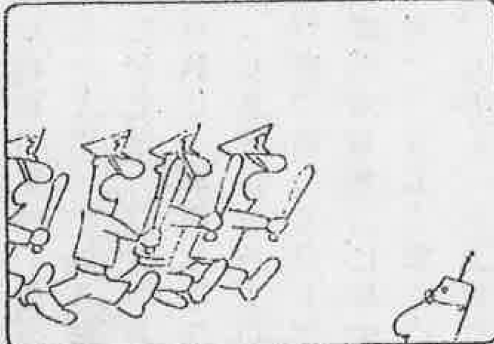


四年が過ぎれば、オールド家
オールド家族のことばかり。
どうなるー
へ流行歌ばかりのオールド
オールドをいってさ。

1963.3 軍政延長を従表

韓国を日本の経済圏に從属させようとする日韓条約は、過去の植民地支配の責任上からいっても、日本人としては締結させてはならないものであった。しかし、日本では反対運動は大きな盛り上りを見せず、日韓条約は両国の国会で強行採決

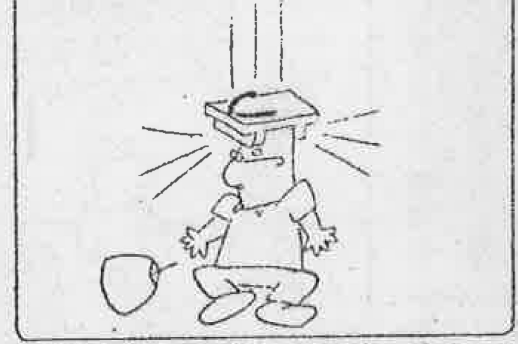
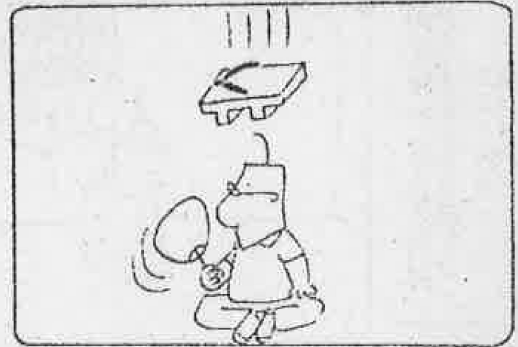
△労働条件を改善せよV



△、労働白書も改善するといっているのに、どうして打つのか。

△、労働白書も改善するといっているのに、どうして打つのか。

△注ーげたは日本を象徴V



△えー！こんなものを

1970.11

1965.6 日韓条約締結

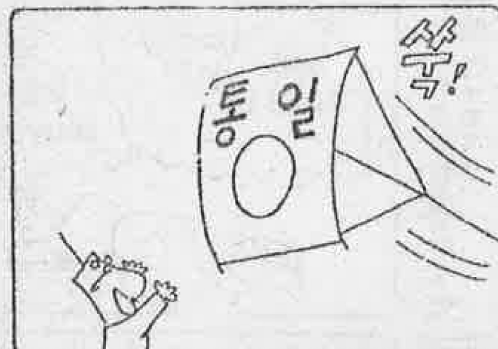
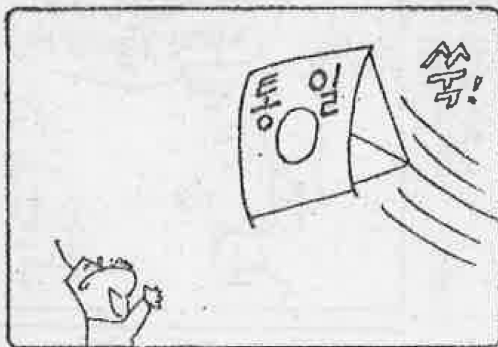
された後、ソウルで批准書が交換された。日韓条約締結は、日本資本の再侵略を促がし、それに伴ない韓国の一部特権階級の不正、腐敗を生み出した。それは逆に、民衆に悲惨な生活条件を強いる結果にもなっている。

一九七〇年十一月、ソウル東大門の平和市場縫製工場の非人間的な労働条件に抗議して、全泰を青年が焼身自殺という非常手段に訴えた。十五歳ぐらゐの子供が飢えをまめがれるため、一日百ウォン前後の給料で十五時間労働してこの世である。

七・四声明以後

一九七二年七月四日、朝鮮の南北の政府は、朝鮮統一についての南北共同声明を發表した。声明の内容は、
①自主的に ②平和的に ③民族の大同団結で統一をはかるといふものであった。この共同声を契機として南北赤十字本会談、南北調整委員会設置などによる対話が、七二年度中は注目すべき進展をみた。しかし最近の南北間の関係は、七・四声明以前の状態に逆行したとの印象を受ける程に、冷却化している。
特に朴政権は、このコバウおじさんにもみられるように、当初から民衆の統一論議の高まりを恐れこれを

抑制するとともに、対話の進行に水をさすような言明を行なっている。同じ年の十月、非常戒厳令布告をきっかけとする「十月維新」は、朴大統領の永久政権化をねらったものだが、この際にも南北対話を促進するためという「大義名文」が利用されたようだ。
非常戒厳令で韓国のお論界は大きな制約を受けた。この時のコバウおじさんは、厳しい検閲を受け、合せで約四十回分が廃棄された。
一九七三年八月に起きた金大中氏拉致事件は、こうした朴の強権政治の延長線上にあった。すなわち、国内における民主、言論の自由正統のため、外国に反朴運動の場を求めざるを得なかった金大中氏に対し、目の上のたんこぶとばかりにKCIAが抹殺を図ったのである。
事件の結着は、日韓両政府の間でうやむやに処理されてしまったが、これによって両国政府間の懸念は癒着関係が、より多くの人々に知れわたる結果となった。



1972.7.10 一般人の統一論は厳禁

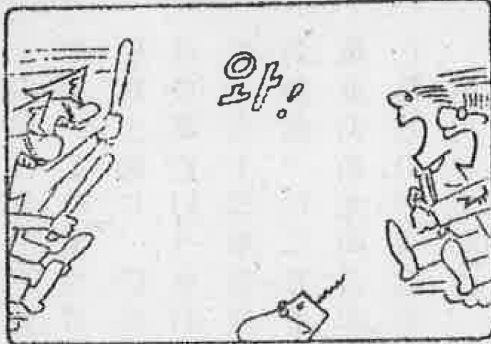
「スリーツ」

むだ話したら知罪する。

「スリーツ」

知罪のない統一論は厳禁

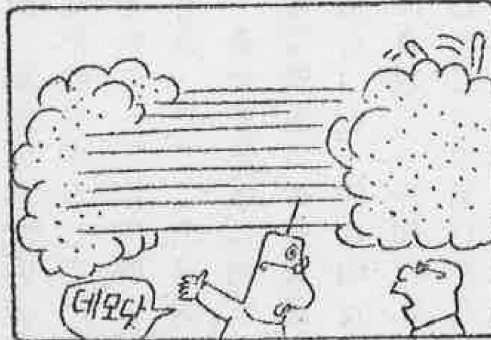
ワー



この路地は金さんの家
なので入れません



デモだ



じゃその家に戸独立し
ていざを申請しなければい
けないですわー、いや



とんでもない……
警官はどつぱらで追っ
かけて……



じゃその家は教道所で現
在服役中ですわ



学生はバスに乗り遅
れないように急いでいる
ところだよ



そろそろ自由になりました
「政治活動中止」



1973.10 ソウル大学生デモ

1973. 金大中氏 釈放状態解除後
最初の記者会見

漫画は十月二十六
日付のもので、金大
中氏の釈放解除を諷
刺したものだが、新
聞では四コマ目のフ
ラカード内の文字が
削除して出された。
七三年十月二日の
ソウル大学生のデモ
は、どのような弾圧
下でも民衆の抵抗工
ネルヤーはたむるこ
とはないということ
を如実に示したもの
といえよう。これを
契機として、各界各
層の抵抗運動が奔流
のようにほとばしり
出たのである。
十・二当時マスコ
ミがデモに対する地
黙を守るばかりで、コ
パウだけがこれとりにあつた。

앗! 저기 온다

귀하신몸 행차
하시나이까?

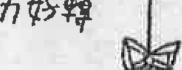


저 어른이 누구신가요?

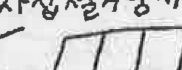
쉬-

경무대 서 똥을
치는 분이요

電力好轉



판자집 철거 중지



1958.1 寧福事件を起した渡田

1956.5 大統領選挙

朴大統領は維新体制の存続を向うために国民投票を行なうことを決定、現在そのキヤンペーンにおおむねやりぬであるが、一月二十五日付毎日新聞ではそのもようの一端を次のように伝えている。

「国民投票を控えた韓国農林部で時々はめ工事ラッシュが起こり、軍總農民にはく大なる金がばうまかれ、ソウルでは隣組長を集めた身会で運動やつの外振券が配られ、茶話会がしこり――」

右上の漫画は李承晩時代のものであるが、現在も大して違ひはないようだ。

左の漫画は、作者の金屋煥氏が「元前侮辱軍」に肉われ、裁断にかけられた結果四百五十万の罰金でやりとなった。